

【総会報告】

高知人文社会科学会 第5回総会報告

総会 高知人文社会科学会運営委員会は、2017年3月4日、高知大学朝倉キャンパス共通教育1号館127教室にて設立後5回目となる総会および公開シンポジウム「高知の環境紛争——科学、法、デモクラシー」を開催した。会長は吉尾寛（高知大学人文社会科学部長）、運営委員は岩佐光広、遠藤晶久、岡田健一郎（運営委員長）、後藤拓也、宮里修、吉門牧雄である。総会の実行委員は岡田健一郎と遠藤晶久が担当した。

総会では、吉尾会長による開会挨拶の後、学会誌『高知人文社会科学研究』第4号の発行などに関する報告が行われた。

優秀修士論文発表会 総会に引き続いて優秀修士論文発表会が行われ、以下の報告が行われた。

藤戸柔良（高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 人文社会科学専攻）

「他者理解のステレオタイプ——16世紀スペイン・ポルトガルにおけるラテンアメリカ理解と日本理解の比較から」

藤戸報告に対しては中西三紀氏（高知大学人文社会科学部准教授）からコメントが行われた後、質疑応答を経て、優秀修士論文発表会を終了した。

（「高知人文社会科学研究」編集委員会）

